

大田区医工連携支援センターに聞く

医療現場と中小企業をマッチング

## 医療機器開発と今後の課題

平成24年11月7日に(公財)大田区産業振興協会が東京労災病院と連携して設立した「大田区医工連携支援センター」。  
大田区大森南四丁目工場アパート「テクノFRONT 森ヶ崎」を拠点に、中小企業の医療機器開発を支援しています。

町工場が持つ優れた技術を  
医療製品に生かすための支援

大田区には、高度な製造技術を持った中小企業が集まっています。その技術力を医療分野の製品開発に生かすための拠点として、大田区医工連携支援センター(以下、支援センター)が設立されました。医療は、今後の成長産業として注目される分野です。

「現在、日本の医療現場では、手術等に使用する人工呼吸器や人工血管などの約80%を外国製品に頼っており、医療現場では日本人の体型サイズに合う医療機器が望まれています。そんな医療現場の需要と中小企業の技術をマッチングさせる支援センターの取り組みに期待しています」(氏家先生)

現在、テクノFRONT 森ヶ崎の1室を東京労災病院医工連携室とシェアしながら、医療と製造業の従事者が情報交換できる場を設け、新しい医療機器や医療器具の開発を進めています。

「自動車産業等に使われてきた大田区中小企業の高度な技術は、医療産

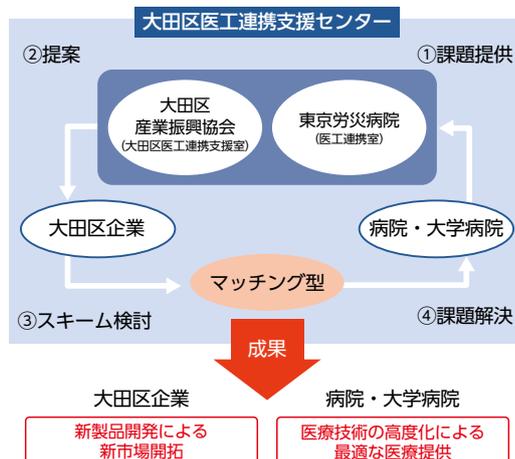
業に転用することが十分可能です。医師が求めるニーズに応えられる可能性を持つ企業を紹介し、双方が課題に対して医学的・工学的にアプローチし、製品に落とし込んでいきます。その打ち合わせや忌憚のない意見交換の場として、支援センターを使っています」(木川氏)

医療分野が求める医療機器に  
適切な中小企業をマッチング

例えば東京労災病院の氏家先生と(株)iMottの松尾氏の間では、理美容師向けハサミの製造時に開発した高硬度で生体親和性の高い炭素膜を、医療機器に転用するプロジェクトが進行しています。要素開発と並行して、市販品を改良したもので医師による試用を行っており、次期試作へのフィードバック～コンカレント開発につなげていく予定です。

新しい医療製品を大田区から  
世界へ広く届けるための課題

この試作品を完成形に近づけると



もに、職人の手作業で行っている生産を大量生産のラインにのせ、国内外にどう販売していくかが今後の課題です。新しい生産ラインを作るための資金調達や国内外の販売網の確立、そして医療機器は国の認可が厳しいため、認可申請を専門に担当する人材も必要となります。それらを抜本的に解決する方法や、大量生産に至った製品が支援センターの携わったプロジェクトからまず一つ成功すれば、それに続く流れが生まれてくると考えています。支援センターは医療現場・中小企業と三位一体となりながら、これらの課題に尽力しています。



氏家 弘先生

独立行政法人  
労働者健康福祉機構  
東京労災病院副院長・  
脳神経外科部長  
医工連携室長・  
先端医療工学科部長



松尾 誠氏

株式会社 iMott  
東京研究所  
取締役会長 COO



木川 玲児氏

公益財団法人  
大田区産業振興協会  
市場開拓支援グループ  
新産業・連携チーム  
医工連携支援室  
医工連携担当  
主任コーディネーター



## 大田区医工連携支援センター

〒143-0013 東京都大田区大森南4-6-15

大田区大森南四丁目工場アパート(テクノFRONT 森ヶ崎)409号 TEL 03-6423-7818